

平成26年度日本小児外科学会
第2回定例理事会議事録

日 時：平成 26 年 9 月 30 日（月） 11：00～16：00

会 場：東北大学東京分室 会議室 B

出席者：仁尾正記（理事長）、黒田達夫（副理事長）、前田貢作（理事・会長）、田口智章（理事・副会長）、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡、八木 實、漆原直人、米倉竹夫（以上理事）、岩中 督、菰澤融司（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、小室広昭（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計副委員長）、田中 拡（庶務委員）、尾藤祐子（庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第3回定例理事会の議事録署名人は、窪田正幸理事、八木 實理事とした。
2. 成26年第2回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 報告事項
 - 1) 新庶務委員（会長付）就任ご挨拶（尾藤庶務委員）
尾藤祐子庶務委員より、新庶務委員（会長付）就任の挨拶があった。
 - 2) 専門医認定委員会委員長について（仁尾理事長）
仁尾理事長より、専門医認定委員会委員長について、専門医認定委員会選挙の結果、檜山英三委員が委員長に選任されたことが報告された。
 - 3) 第51回学術集会開催報告について（濱田前会長）
濱田前会長より以下の報告があり、了承された。なお、会計について後日報告予定である。

特別演題・指定演題：45題

特別講演、招待講演、教育講演3題、文化講演、シンポジウム12題、パネルディスカッション指定6題、国際セッションKeynote Lecture 5題、Meet the Expertビデオ5題、教育セッション3題、特別企画6題、新生児外科アンケート報告、会長講演

公募演題：651題（口演174題、ポスター477題）

ワークショップ29題、パネルディスカッション9題、国際セッション11題、要望演題78題、ビデオセッション25題、一般口演22題、国際ポスターセッション23題、ポスターセッション 454題

当日発表キャンセル：7題

国際ポスター4題、国際セッション1題、パネル1題、ポスター1題

当日発表演題総数 689題

スポンサードセミナー 7セッション11題

サテライトセミナー 2題

総講演数 702題

学術集会参加者

	有料						無料				合計
	一般	(評 議 員)	(一 般)	研修 医	コメ デ ィカ ル	NC D 事 務 局	招待	学生	ID付 き医 師	ID付 き研 修医	
7日	234	231	(3)	0	0		26	0	5		265
8日	325			7	11		8	17	25	2	395
9日	191			11	0		3	5	6		216
10 日	106			7	3	2	0	10	4		132
合 計	856			25	14	2	37	32	40	2	1,008

学会主催セミナー 受講者

- ①医療倫理安全管理・利益相反講習会 約70名
- ②小児救急セミナー 114名
- ③内視鏡手術セミナー 125名（事前申込82名、当日申込46名、キャンセル3名）
- ④卒後教育セミナー 108名（事前申込76名、当日申込36名、キャンセル4名）

学術集会主催スポンサードセミナー 受講者

- ①小児ストーマケアハンズオンセミナー 49名
- ②腹部エコーハンズオンセミナー 10名

表彰者

トラベルグラント 海外からの3名（インド、インドネシア）
研修医セッション優秀発表者 研修医2名

4) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 難病のこども支援全国ネットワークからの冊子「がんばれ！Vol.144～145」を受領した。
- (2) 厚生労働省安全対策課から「医薬品・医療機器等安全情報 No.312～313」を受領した。
- (3) 日本医療機能評価機構からの冊子「医薬品ニューズレター5月号・7月号」を受領した。
- (4) 日本医療機器産業連合会からの冊子「医機連ニュース Vol.85」を受領した。

- (5) 日本外科学会からの通信文「専門医認定試験および予備試験日お知らせ」を受領した。
- (6) 日本医学放射線学会からの通信文「理事長退任と新理事長就任のご挨拶」を受領した。
- (7) 外科関連学会協議会からの通信文「協議会座長交替通知」を受領した。
- (8) 日本製薬工業協会からの冊子「製薬協ニューズレターNo.161」を受領した。
- (9) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局からの通信文「健やか親子 21 について検討会報告書」につき、北川理事より資料に基づき報告があり、了承された。
- (10) 厚生労働省社会・援護局からの冊子「特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行令別表第 3 における障害の認定要領の一部改正について」を受領した。
- (11) 日本医学会からの DVD「第 145 回日本医学会シンポジウム」を受領した。
- (12) 日本心臓血管麻酔学会からの通信文「一般社団法人移行のご挨拶」を受領した。
- (13) 日本医療安全調査機構からの冊子「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業 25 年度事業実施報告書」を受領した。
- (14) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.44-No.6~No.7」を受領した。
- (15) 日本医師会女性医師支援センターからの通信文「平成 26 年度 医学生、研修医等をサポートするための会の開催について」を受領した。
- (16) 日本小児栄養消化器肝臓学会から通信文「50 周年記念号送付お礼状」を受領した。
- (17) 日本小児眼科学会から通信文「50 周年記念号送付のお礼状」を受領した。
- (18) 日本看護協会から通信文「50 周年記念号送付のお礼状」を受領した。
- (19) 日本医師会女性医師バンク中央センターからの通信文「女性医師支援に関するアンケート調査について（御礼と報告）」を受領した。
- (20) National Clinical Database からの寄贈本「National Clinical Database を用いた医療資源の現状把握並びに適正配置に関する研究 平成 24~25 年度総括研究報告書」を受領した。
- (21) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ガイド 2014-2015」を受領した。
- (22) 九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会実行委員会事務局からの通信文「第 9 回九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会開催のお知らせ」を受領した。
- (23) 日本医学会連合からの通信文「平成 26 年度第 1 回理事会報告」を受領した。
- (24) 日本専門医機構からの冊子「日本専門医機構ニュース No 1」につき、仁尾理事長および岩中監事より日本専門医機構第 1 回理事会の報告があり、了承された。
- (23) 日本小児科学会からの通信文「今後開発や導入が望まれる小児用医療機器に関する要望 御礼と報告」について仁尾理事長より報告があり、了承された。

5) 臓器移植関連学会協議会報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づき、臓器移植関連学会協議会に新たに設置されたワーキンググループである臓器提供施設体制整備委員会の報告があり、了承された。また、黒田副理事長より、資料に基づき、臓器移植関連学会協議会に新たに設置されたワーキンググループである移植施設体制整備委員会の報告があり、了承された。

6) 外科関連専門医制度委員会報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づき、外科関連専門医制度委員会の報告があり、了承された。日本専門医機構における基本領域の研修プログラム作成が近々にも開始の見通しであり、日本小児外科学会としても subspecialty 領域の研修プログラム作成依頼があることを念頭に、備えていくことが確認された。

7) 日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会報告（田口副会長）

田口副会長より、資料に基づき、小児慢性疾患委員会における作業進捗状況が報告され、了承された。

8) 日本消化器外科学会新専門医制度プログラム作成 WG (Ad hoc) 報告（米倉理事）

米倉理事より、資料に基づき、心臓血管外科専門医に関する方針は、subspecialty（2 階建て）の外科医を育てるために、外科研修と各 subspecialty の研修を連動して進める形（連動型）による研修 system を新しい日本専門医機構に対し提示していきたい考えであり、呼吸器外科専門医も同様の考えであり、今後消化器外科学会も同様のプログラムでの専門医制度の構築を検討していくことになったと、報告された。

4. 審議事項

1) 第52回学術集会について（前田副会長）

前田副会長より資料に基づき、プログラム案が提案され、承認された。

日時：平成 27 年 5 月 28 日（木）、29 日（金）、30 日（土）

会場：神戸国際会議場

テーマ：全てはこども達の笑顔のために：Challenge and Care（暫定）

理事会、評議員会：平成 27 年 5 月 27 日（水）

評議員懇親会：5 月 27 日 会員懇親会：5 月 29 日

2) 第53回学術集会について（田口副会長）

田口副会長より、ご挨拶があり、以下の提案があり引き続き検討することとなった。

日程：平成28年5月21日～29日頃

会場：ヒルトン福岡シーホーク

※アジア小児外科学会学術集会の同時開催予定である。

3) 第30回秋季シンポジウムについて（前田理事）

前田理事より、資料を基に、準備状況の説明があり、承認された。

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）

会場：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

PSJM2014（平成26年10月30日（木）・31日（金））との合同開催

4) 庶務委員会（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より、資料に基づき以下の報告がなされ、承認された。

- ・ 2014年6月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,855名（うち海外2名）、評議員317名、名誉会員53名（うち海外8名）、特別会員68名（うち海外1名）の合計2,293名である。
- ・ 規約委員会について、構成員案と業務内容案が資料に基づき報告・提案され、審議の結果、特別委員会として設置するものとして承認された。なお、臨時委員の推薦も含め、次回以降の理事会に委員候補者を提案することとなった。
- ・ 他団体からの日本小児外科学会会員宛メール配信によるアンケート等周知依頼について、以下提案があり、審議の結果、承認された。
 - ① 会員情報頒布に関する庶務委員会内規第3条第3項「電子媒体の場合は、理事長の許可を得るものとする。」となっている規定を、「電子媒体は原則として頒布しないものとする。」へ変更する。
 - ② 他団体からのアンケート等をメールで受け取るかどうかについて、会員各々の会員登録情報の中に同内容の質問項目を設定し、会員の意思を確認することとする。
 - ③ 他団体からの日本小児外科学会会員宛に行うアンケート等依頼の内容判断については、庶務委員会にて内容を確認の上、内容を判断するための担当委員会を決定することとする。

5) 財務会計委員会（渡井財務会計委員長）

渡井財務会計委員長より、50周年記念号については、機関誌委員会と検討の結果、1冊¥3,000にてバックナンバーを販売することが提案され、承認された。

6) 各種委員会報告

(1) 国際・広報委員会報告（仁尾理事長）

仁尾担当理事より、第一回「子どもとICT、子どもたちの健やかな成長を願って」委員会（4者協委員会）の委員会に仁尾理事長、川島章子評議員が出席し、資料に基づき、報告があり承認された。

(2) 機関誌委員会（北川担当理事）

北川担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・ 物故会員への追悼文執筆依頼につき、名誉会員平井慶徳先生の追悼文は、山高篤行先生へ執筆者の相談、特別会員城谷均先生の追悼文は、濱田吉則先生へ執筆者の相談、特別会員横山隆先生の追悼文については檜山英三先生に執筆依頼することとなった。
- ・ PSI publication committeeに機関誌委員会担北川当理事および千葉委員長を委員に追加していただくようにPSI publication committee山高委員長へ依頼することとなった。

- ・ 共著者に非会員がいた場合には、**Corresponding author**に入会するよう促し、当該非会員は入会を希望しないこととなった場合に、非会員の先生のお名前を掲載したい場合には、謝辞として記載されることを**Corresponding author**に確認を取ることとなった。
- ・ 投稿既定に関し、以下修正内容が提案され、承認された。
 - ① 二重投稿に関する但し書「外国語誌にすでに掲載された論文で、本誌に日本語で再投稿を希望する場合.ただし、オリジナル誌の承認を得た上で、オリジナルに改変を加えずそのまま日本語表記として、その出典と二次出版物であることを論文に明記すること.編集委員会の審査により採択を認められれば資料として掲載される.(12.二次出版の項参照)」を削除する。
 - ② **Corresponding author**を著者の上級医（指導医）とし、査読結果は著者及び相談出来る共著者の両方に送付する。

(3) 保険診療委員会（窪田担当理事）

窪田担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 外保連による平成26年度診療報酬改定に対する不合理矛盾アンケートにおいて、平成26年5月21日付でA400-3:短期滞在手術等基本料3の改定を「不合理」として緊急改定要望を提出した。内容に関して当初は小児外科専門施設における鼠径ヘルニア収入の大幅な減少を主に主張するものであったが、外保連および当理事会での審議の結果、下記の通り、これまでの厚労省の小児に対する配慮が無駄になってしまうということに重点を置いたものにした。
また、この内容については厚生労働省へも要望書を提出することが提案され、承認された。

「小児医療においては手厚い医療が必要との認識で、この数年間で手術に関しては低出生体重児、新生児、3歳未満の手術加算を大幅に増やして戴くとともに、6歳未満の手術加算も戴きました。また、入院管理においても、乳幼児では痛みなどの異常を訴えられず、周術期の合併症を含め特別注意深い観察が必要として、常勤医師数や看護師配置という基準を達成できている小児専門施設に対して小児入院医療管理料算定を戴きました。今回、小児鼠径ヘルニアの短期滞在手術基本料3の年齢区分を15歳で区切ったことは、手術の小児加算に加え、小児入院医療管理料もすべての施設に分配することになり、一般病院における小児鼠径ヘルニア手術の増加を促進させる危惧があります。今後も、乳幼児の鼠径ヘルニアを小児専門施設で安全に施行できるよう、短期滞在手術基本料の設定に異を唱えるものではありませんが、せめて年齢区分を3歳未満、6歳未満で区切っていただき、15歳区分を廃止して下さいますよう、要望いたします。」

- ・ 平成28年度診療報酬改定に向けた準備を開始している。

(4) 教育委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 第30回日本小児外科学会卒後教育セミナー・第5回日本小児外科学会内視鏡手術セミナーの開催報告およびアンケート結果が報告され、承認された。
内視鏡手術セミナー 125名（事前申込82名、当日申込46名、キャンセル3名）
卒後教育セミナー 108名（事前申込76名、当日申込36名、キャンセル4名）
- ・ 卒前教育アンケートについては、機関誌掲載後にアンケート回答者へ結果を通知すべく、別刷作成が必要であり、別刷作成費用が発生することが提案され、学会負担とすることが承認された。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 2013年登録データを電子登録システムで11月中に集計し、12月はじめまでに分析し、1月に校正予定である。
- ・ 平成35年までの登録業務の更新についての倫理審査を委員長の施設である京都府立医科大学で申請中である。
- ・ 登録データ利活用に係る規定作成のため、DB委員会から申請フォーマットをもとに悪性腫瘍委員会としての申請フォーマットを作成予定である。
- ・ 年次報告の別刷は電子媒体での提供を行うこととなり（要望があれば地区センターがコピーを手渡すこととする）、承認された。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 学術集会では二次回答が得られた217施設3414例（二次回答率82.82%）の集計を発表した。学会報告までに集計が間に合わなかった施設およびデータが解析できなかった（CDが開かないなど）施設に再度依頼して、8月中を目処に現在再集計中である。論文報告は二重投稿にならないようにPSIへの投稿を優先する。なお、5年後の対象施設における泌尿器科施設と胸部外科施設の取り扱いは継続審議となった。
- ・ 第51回学術集会優秀ビデオ作品（7演題）をホームページにアップした。
- ・ 有志賞推薦につき、審議の結果、日本大学 星 玲奈 先生を学会として有志賞に推薦するに問題ないと判断し、理事会に答申し、理事会の承認を得、推薦の手続きを行った。
- ・ 小児の患者において、今後開発や導入が望まれる機器について、PMDA委員の筑波大学田中秀明先生と検討の結果、1. 胃電図、2. バキュームベル、3. 小児用ファイブロスキャン、4. ライフポート（肝臓用の持続還流用機器）、5. 筋刺激装置（鎖肛手術用）をリストアップして医薬品医療機器総合機構（PMDA）に6月17日提出した。

- ・ 他の学会、研究班からの診断基準、重症度判定、ガイドラインなどの評価および承認依頼平成26年6月2日に「気道狭窄に関する全国実態調査」研究代表者、前田貢作先生から「小児気道狭窄に関する全国実施調査（一次調査）」について、審議依頼があり、審議の結果6月4日に承認し、6月7日理事会回覧審議承認となった。
- ・ 小児慢性特定疾患治療研究事業対象疾患の「診断の手引き」作成の先天性胆道拡張症について、1月に承認済みであったが、若干の修正があったため再度の審議後、理事会回覧を経て6月30日付で承認された。平成26年5月7日付の理事会回覧審議終了をもって「小児慢性特定疾患対象患児見直しのための「診断の手引き」のうち「慢性特発性偽性腸閉塞症」、「クローン病」、「先天性腸管神経節細胞僅少症」、「ヒルシュスプルング病」、「巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全」「リンパ管腫・リンパ管腫症」、「仙尾部奇形腫」、「潰瘍性大腸炎」、「先天性横隔膜ヘルニア」、「乳幼児難治性肝血管腫」、「総排泄管腔遺残症」、「総排泄腔外反症」が承認された。

(7) 倫理・安全管理委員会（漆原理事）

漆原担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・ 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業として中立専門機関が創設されることが報告された。それに伴い、各領域の推薦担当者・登録評価委員を選定する依頼があり、倫理・安全管理委員にて候補者を検討し、理事会へ報告の上、推薦することとなった。
- ・ 第51回学術集会における倫理安全管理・利益相反講習会（講師：大阪大学消化器外科学教授 土岐祐一郎先生）には約70名の参加者のもと開催された。また、第52回学術集会における倫理安全管理・利益相反講習会には田中真一郎先生（岡山大学外科）に依頼することとなっている。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 仕様書_小児外科NCD-Pediatric(Ver 1.1.6)およびNCD-PのCRFの作成中であること報告があり承認された。
- ・ 2011年・2012年の小児外科主要手術症例数と死亡率について検討を行った結果、2014NCD術式紐付けへの追加・修正・削除の要望検討の必要性があることが提案され、施設認定委員会とともに新紐付けを審議することとなった。

(9) 小児救急検討委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事・黒田理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・ 第4回小児救急セミナーについては、第51回学術集会会期中(平成26年5月8日夕刻より90分間)に「Damage Control Strategy」を開催し、参加者114名であった。
- ・ PALS講習会は前回理事会で報告したように大阪ACLS協会のラボで開催し、会場費は

不要であり、かつ日本小児外科学会会員には参加費の補助が得られたが、参加申込者がおらず開催中止となった。このことを受け、今後の開催を継続すべきかどうか、特に学術集会時に併催することにつき、委員会で検討し、理事会に報告することとなった。

(10) 利益相反委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、資料に基づき

- ・ 学会誌の査読者に関する利益相反状態について、機関誌委員会との検討を行い、今後、査読者に対しても利益相反状態を確認することとした。
- ・ 「臨床研究の利益相反に関する指針」、「臨床研究のCOI（利益相反）に関する指針運用規則」の見直し作業を行っており、完了次第、理事会に報告することとしている。
- ・ 専門医制度との関係から、倫理安全管理・利益相反講習会の受講義務化の必要性が提案され、専門医制度の変更に伴い、専門医制度委員会などの意向を待って、再度検討することとなった。

(11) ワークライフバランス検討委員会（窪田担当理事）

窪田担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 第51回日本小児外科学会学術集会のパネルディスカッション「専門医制度における課題」として妊娠・出産・育児・介護期間中の専門医資格継続（更新猶予規定）などに関する調査結果を含め、現状と今後導入される「認定登録医」制度について委員会として演題発表を行った。
- ・ ホームページでの広報として以下掲載を予定している。
 - a.ワークライフバランスに関するアンケート結果および村木厚子氏講演会の記事
 - b.ロールモデル紹介：
 - ・ 第1回 女性外科医（小林先生）とその上司（窪田先生）記事を掲載した
 - ・ 第2回 育メン小児外科医（世川先生）記事作成中
 - ・ 第3回 介護経験小児外科医（中野美和子先生）取材済み
 - c.各施設における男性医師も含めた労働時間の実態や、時短勤務（介護や育児支援）の具体例や問題解決策の紹介、キャリア支援策の紹介
- ・ ワークライフバランスについての啓蒙活動、懇親活動
 - a.PSJM2014 会期中に桃井眞里子氏による講演会（参加者約100名）および懇親会を検討している。また、PSJM2015にて開催する講演会は10月29日で調整中である。
 - b.会員間の懇親を図るとともに精神的なサポートにつなげるため、ワークライフバランス、男女共同参画、女性キャリア支援などに関心のある会員向けの懇親会を企画している。
- ・ 他学会との交流、ネットワークづくりとして日本臨床外科学会（福島県郡山）でのJAWS朝食会へ出席した。
- ・ クオータ制については、この論点について性別を問わず意見を集められる仕組み

を含め、継続審議事項としている。

- ・ 学術集会時の託児所について、利用者からは費用を含め、利用しにくいとの意見もあり、他学会の情報を確認し、検討していくこととなった。

(12) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき具体的に移行期にかかる疾患に関し、委員より報告された各担当領域の問題点が報告され、承認された。

また、日本小児科学会の「小児慢性疾患患者の移行支援検討WG」より、疾患（病態）別の移行支援ガイドブックの試案（医師向け）が提供された。本会としても、小児外科疾患について、移行期に関連しやすい病態の具体例をあげて、担当を分担して冊子を作成する方向で進めることが提案され、承認された。なお、内容の審議については、スピード感を落とさずに委員会内だけでなく様々な意見・議論を必要とするものであることが確認された。

7) 選挙管理委員会（菱木選挙管理委員長）

菱木選挙管理委員長より、選挙管理委員として高安肇評議員が推薦され、承認された。

また、資料に基づき、第22回評議員選挙公示案が提案され、承認された。なお、公示の周知方法としては第22回評議員選挙より郵送ではなく、メールおよびホームページでの周知としていくことが提案され、承認された。

8) その他

(1) 心の絆プロジェクトから被災地支援活動への後援名義使用許可について（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づき、後援名義使用許可依頼の内容が報告され、審議の結果、許可することが承認された。

(2) 小児慢性特定疾患のあり方に関する研究について（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づき、小児慢性特定疾患治療研究事業に関する累積データを使用した研究依頼があり、外科疾患に関しては仁尾理事長が研究代表者となって、実施することが報告され、承認された。なお、研究希望テーマがある場合は適宜、仁尾理事長へ申し出ることとなった。

(3) 日本小児連絡協議会（4者協）合同委員会委員および小児災害医療検討委員会（仮称）について（仁尾理事長、田口副会長、米倉理事）

田口監事より、資料に基づき、合同委員会委員の推薦依頼があったことが報告された。仁尾理事長より、以下の委員推薦案が提案され、承認された。なお、各委員においては実務委員としてもう1名（在京が望ましい）検討することが確認された。また、米倉理事より災害医療に関する委員会へも働きかけをすることが提案され、次回日本小児連絡協議会にて提案することとなった。

- ・栄養委員会 窪田理事
- ・重症心身障害児（者）・在宅医療委員会 八木理事
- ・「子どもと ICT、子どもたちの健やかな成長を願って」委員会仁尾・川島章子委員（国際広報）
- ・自動車乗車中の子どもの安全推進合同委員会 松藤理事
- ・成育基本法制定推進委員会 米倉理事
- ・地域小児科総合医検討委員会 漆原理事

(4) 小児外科専門医更新に関して（仁尾理事長）

仁尾理事長より、小児外科専門医を有する東真弓会員が日本外科学会の専門医資格として外科認定医のみを有している状態であり、更新要件となる外科専門医あるいは外科認定登録医を有していないため、現状では小児外科専門医を更新できない状況であることが報告された。日本外科学会における認定医から認定登録医への移行措置期間（2010年～2012年）に東真弓会員が海外留学していたため、当該措置を履行できなかった経緯があり、審議の結果、日本小児外科学会として外科関連専門医制度委員会へ、東真弓会員について、外科認定医から外科認定登録医へ移行できるように依頼することとなった。

9) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成26年9月30日（火）11：00～16：00東北大学分室 会議室B（予定）にて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____